

スマートフォンチャットの開始発話とその反応に関する日韓対照研究
—構成要素と連鎖パターンを中心に—

李 涓 丞*

Japanese-Korean Contrastive Analysis of the Sender's Initiation
Utterances and Receiver's response in Smartphone Chat:
Focusing on Components and Sequences of the Utterances

LEE Yeonseung

Abstract

This study aims to examine the structure characteristics of the opening section of Japanese and Korean smartphone chat. To examine the sender's initiation utterances and receiver's reactions, the components and sequences of the initial utterances of the chat were analyzed. The results showed that, concerning the components, in both languages the sender uses a large quantity of A[attention request]. On the other hand, while in Japanese chat both the sender and the receiver use B/b[greetings] to maintain or rebuild their relationship with the conversation partner, in Korean chat the sender uses C[checking the situation] and the receiver uses d[answer], which tends to delay the entrance to the main point of the conversation. Furthermore, both languages chats lacked an opening section, as well as utterances leading into the main point without waiting for the partner's response in some portions of the conversation.

From the above, it has been found that there is a unique structure in both languages. As smartphone chat conversations between Japanese and Koreans are increasing, this research hopes to provide important insights for intercultural text message communication.

Keywords : Smart phone Chat, Opening Chat, Japanese-Korean Contrastive Study, Components, Initiation Sequences

1. はじめに

近年、新しいコミュニケーション手段として、スマートフォンチャットサービス、LineやKakao Talkなどの利用が著しく増加している。しかし、スマートフォンチャットには今までのコミュニケーション手段とは違う特性があると言える。対面会話と違って身ぶりなどの非言語的要素が用いられないし、電話会話とも違って音声ではなく主に文字を用いてチャットが進む。メールとは文字を用いてコミュニケーションをするという共通点はあるが、スマートフォンチャットの方が同期性が高い。コンピューターチャットとも文字を用いるという共通点はあるが、相手がメッセージを確認したかどうかを知らせる既読機能がある。スマートフォンチャットにはこのような場面性があるため、倉田(2004)が新しい媒体を使うことによりコミュニケーション自体が変化する可能性がある」と指摘したように、スマートフォンチャットのコミュニケーションは対面会話、電話会話、メール、コ

キーワード：スマートフォンチャット、チャット開始、日韓対照、構成要素、連鎖パターン

*平成28年度生 比較社会文化学専攻

ンピューターチャットなどとは異なる様相が見られると考えられる。

相手と接触し、それまで離れていた時間を埋め、相手との友好的関係を維持・再確認しながら、話題に入る前の準備をするチャットの〔開始部〕は誰にとっても簡単ではないだろう。また会話は会話参加者が協力して作っていくものであり、相手の反応により開始部の構造が変わる可能性もある。スマートフォンでは今までとは違う開始部の構造がありえるため、スマートフォンチャットのチャット開始部の構造を調べる必要がある。特に、チャット開始発話とそれに対する相手の反応はチャットの開始部の構造に大きな影響を与えるので、本研究では、日韓母語場面でのスマートフォンチャットの開始方法を明らかにすることを目的とし、チャット開始発話とその反応の構成要素、そしてその連鎖パターンにおいて日韓でどのような特徴があるのかを分析する。本研究で得られた結果は、今後の日韓接触場面での円滑なチャットコミュニケーションに役立つと考えられる。

2. 先行研究

会話の開始部の構造について言及している研究は、日本語母語場면을対象としたものと、日韓接触場면을対象にしたものに分けられる。まず母語場面の研究は電話会話を資料とした吉野 (1994)、ザトラウスキー (1993) と、コンピュータのMSNメッセンジャーを分析した倉田 (2004) がある。日韓接触場面の研究には、電話会話を資料とした林 (2003)、談話完成テストを行った鄭 (2009) が挙げられる。

吉野 (1994) は、日本語母語話者5人の電話会話をを用いて、電話会話の開始部を中心にかけ手と受け手の言語行動の特徴を分析した。その結果、開始部では、1) 姓を名乗る、2) ファーストネームを名乗る、3) 相手の姓を言う、4) 相手のファーストネームを言う、5) あいさつ、6) 「わたしです」と言う、7) 用件の前置き表現を言う、の7つの自己提示の行動が観察された。また、かけ手の自己提示には、一連の先行連鎖が見られ、受け手が相手を認定する時は挨拶が頻繁に現れることが分かった。

ザトラウスキー (1993) は、電話の会話は、一部例外もあるが、対面コミュニケーションのように始まりと終わりをはっきり示す言語形式で枠づけられていると述べた。そして、典型的な電話会話の〔開始部〕は、1) 電話が鳴る、2) 電話の受け手が最初に話す、3) 電話のかけ手が話す、という3つの要素から成り立っていると述べた。

倉田 (2004) は、日本語母語話者間の一対一チャット会話の開始部の実態を調べるために、MSNメッセンジャーでのチャットを分析対象にし、開始部で見られる表現形式と構成要素はどのようになっているのかを明らかにした。その結果、自分から名前を打たなくても、会話ウィンドウで自動的に送り手の名前が現れるなど、自己提示の方法が対面会話や電話会話とは異なる場合があることが確認された。また、「呼びかけ一応答」のような電話会話にはない方法でチャットを開始する場合もあった。その一方で、「挨拶のやりとり」や「挨拶表現」などの電話会話と同じ構成要素も確認され、用いられる表現形式と順序も電話会話と似ていることが観察された。

林 (2003) は、日韓の男女80名による40件の友人同士の電話会話を対象に、開始部の自己提示と相手認定の表現形式、開始部から主要部へ話題を移行する際の特徴を分析した。その結果、自己提示において、日韓ともに応答語(「もしもし」)が多く用いられるが、日本語では韓国語より多くの情報を提供する傾向があり、両国で相手認定として談話標識が頻繁に用いられることが明らかになった。開始部から主要部の話題へ移行する際、韓国語では日本語より話題の開始が遅れる傾向があるが、日本語では話題の開始を明確に示す談話標識が頻繁に用いられていることが分かった。

鄭 (2009) は、日本人・韓国大学生30人ずつに対面での誘いを想定した談話完成テスト(DCT)を行い、日韓勧誘ストラテジーを研究した。そこで、誘い手が話題に入る前に行う様々なストラテジーの部分を「周辺部分」と定義し、「前置き」の部分をさらに、1) 呼びかけ、2) 挨拶、3) 注目要求(相手の注意を喚起する発話)、4) その他(名乗りや相手の近況を尋ねる発話)に分類した。両国で最も多く観察されたのは1) 呼びかけであったが、「前置き」の全体の使用頻度は日本語母語場面より韓国母語場面でより多く現れた。

以上、コミュニケーション手段により異なる会話構造と表現形式が現れること、また日韓母語場面において会話開始部の特徴が異なることが分かった。以上のことから、日韓間のコミュニケーション手段として多く使われているスマートフォンチャットの開始部構造はこれまでのコミュニケーション手段で現れた様相と違う新しい様相

が現れると予想される。しかし、チャットの開始者（以下、かけ手とする）はどのようにチャットを開始するのか、それに対して声をかけられた相手（以下、受け手とする）はどのような反応を見せるのか、そしてそこに現れる日韓の特徴にはどのようなものがあるのかについてはまだ明らかになっていない。

3. 研究課題

したがって、本研究では、以下のような研究課題を設定する。

研究課題1 スマートフォンチャットを開始する際に用いられる構成要素には日韓母語場面でどのような特徴があるか。

1-1 かけ手のチャット開始発話はどのような特徴があるか。

1-2 かけ手の開始発話に対して、受け手の反応はどのような特徴があるか。

研究課題2 スマートフォンチャットを開始する際に用いられる構成要素とその反応による連鎖パターンは日韓母語場面でどのような特徴があるか。

4. 研究方法

4.1 研究データ

本研究の分析データは、スマートフォンのアプリケーション、Kakao TalkとLineで行った一対一チャットである。チャットが始まった部分から一連の話が終わり、チャットが終了した部分までを1件のチャットとし、参加者にその全体の内容をスクリーンショットで保存してもらった。チャットの話題は設定していない。収集期間は2013年10月から11月である。チャットの参加者は、20~30代の友人関係の女性で、韓国語母語話者、日本語母語話者である。母語話者同士にそれぞれ42組のペアでチャットをしてもらい、その中で、話者交換が3回以上行われた韓国語母語話者間のチャット40件と日本語母語話者間のチャット40件を分析対象とする。

4.2 分析方法

4.2.1 分析対象

本研究はチャット開始方法を探ることを目的としているため、開始部で現れるかけ手によるチャット開始発話とそれに対する受け手の反応を分析対象とする。倉田（2004）は、コンピューター媒体の一対一チャットの開始部を「最初の話題に入る前の言葉によるやりとり」と定義し、最初の話題に入る前の言葉のやりとりが無い資料は除いて分析を行った。本研究は、倉田（2004）を参考に、「チャットが始まった瞬間からかけ手が声をかけた目的を最初に提示する発話の前まで」と開始部の範囲を設定する。開始部の有無を確認した上で、開始部があればチャット開始時に用いられる構成要素を分析し、それに対する相手の反応を調べる。その後、チャット開始発話とその反応がどのように連鎖しているのかそのパターンを調べ、最後に日韓母語場面を比較する。

4.2.2 開始発話とその反応の構成要素

本研究では、開始部で現れるチャット開始発話の構成要素とその反応の構成要素を調べるが、もしかけ手の開始発話の部分で本題の発話が見られる場合は、本研究で設定した開始部ではないため、その前の発話までを分析対象とする。受け手の反応においても本題に対する応答の発話は分析対象外とする。同じ種類の構成要素が複数現れた場合は、延べ数で出現頻度を算出した。

まず、構成要素の分類にあたっては、ザトラウスキー（1993）と倉田（2004）を参考にし、表1と表2のように本研究に合わせて一部修正、加筆した¹。本研究で提示する韓国語チャットの日本語訳は筆者による。

かけ手のチャット開始発話の構成要素は、表1のようにA [注目要求]、B [挨拶表現]、C [状況確認]、D [名乗り]、E [天気の話]、F [その他] に分類した。

かけ手のチャット開始発話に対する受け手の反応の構成要素は、表2のようにa [注目要求]、b [挨拶表現]、c [状況確認]、d [応答]、e [天気の話]、f [その他] に分類した。

表1 かけ手の構成要素

構成要素	説明	例文
A 注目要求	相手の名前、あだ名などを呼んだり、文字なしの単独スタンプを転送するなど相手の注目を要求する。	A: 언니 お姉ちゃん (韓) A: J1ちゃん (日)
B 挨拶表現	一般的な挨拶をしたり、相手と会わなかった時間について言及する。また、接触状況について詫びたり、相手の安否を尋ねたりする。	A: 잘 지내? 元気に過ごしてる? (韓) A: おはよー (日) A: 朝から失礼ー (日) A: 久しぶり (日)
C 状況確認	相手の現在の状況を確認する。	A: 여직 바쁘지않? まだ忙しい? (韓) A: 最近忙しいかな?? (日)
D 名乗り	自分の名前を相手に名乗る。	A: 나야 私だよ (韓) A: J24ですっ (日)
E 天気の話	天気について言及する。	A: 今日暑いな。 (日)
F その他	A~Eに該当せず、受け手に情報を要求したり、受け手に反応、情報提供、説明などをする。	A: 来週末、東京に行くよ。(日) ←情報提供 友達の結婚式なんだけど、15日の昼、時間空いてない?? (省略) ご飯でもどう?? ←本題

表2 受け手の構成要素

構成要素	説明	例文
a 注目要求	相手の名前、あだ名などを呼んだり、文字なしの単独スタンプを転送するなど相手の注目を要求する。	A: 잘지내? 元気? B: 언니 姉さん←a 注目要求 진짜 오랜만에어 本当にお久しぶりです←b 挨拶表現
b 挨拶表現	一般的な挨拶をしたり、相手と会わなかった時間について言及する。また、接触状況について詫びたり、相手の安否を尋ねたりする。	복싱아직두 다니고 있어요? ボクシングまだ通ってます? ←c 状況確認
c 状況確認	相手の現在の状況を確認する。	
d 応答	反応を誘導するかけ手の先行発話に対して応答する。	A: よっ。J9元気? B: 元気だよ
e 天気の話	天気について言及する。	B: 응 잘 지내고 있어 うん 元気だよ 요새 많이 추제 最近とても寒いよね
f その他	a~eに該当せず、チャットの目的が現れた発話に対する応答でもなく、受け手から新しい話題を提示したり、受け手が自分の状況の説明、報告などをする。	A: おはよー! 今日大丈夫? B: おはよ! 遅くなってごめん! 大丈夫よ~

4.2.3 開始発話とその反応の連鎖パターン

開始部の連鎖パターンの類型は、表3のようにまとめる。

表3 開始発話とその反応による連鎖パターン

類型	説明
連鎖型	ア チャットを開始したかけ手の発話に対して受け手の反応があり、それが開始部の範囲内に現れる場合
	イ チャットを開始したかけ手の発話に対して受け手の反応があり、それが開始部の範囲外に現れる場合
非連鎖型	チャットを開始したかけ手の発話に対して受け手の反応がない場合
ゼロ型	開始部が存在しない場合

開始部が存在しないチャットを含め、開始部で現れた構成要素の連鎖パターンにより、大きく [連鎖型]、[非連鎖型]、[ゼロ型] に分類する。連鎖型は受け手の反応が開始部の範囲内で現れるかどうかにより、さらに、2つに下位分類する。

上記の分析方法に従い、分析した例を以下に示す。

例1 コーディングの例

1	K52	K53 양 ㅋㅋㅋㅋ여적바쁘시낭?	K53 wwwwwww まだ忙しい?	A [注目要求]	10:12
				C [状況確認]	10:12
2	K53	응 개강해서ㅋㅋ T T 언니는 잘 지내고 있어?	うん 授業が始まって ww T T 姉さんは元気に過ごしてる?	d [応答] f [その他]	10:20
				b [挨拶表現]	10:20
3	K52	그럼ㅋㅋ 기냥저냥나야모늘ㅋㅋ 내일도바빠?	もちろん ww まあまあ私はいつもね ww 明日も忙しい?		10:20 10:20 10:21
4	K53	넌 몇시?	明日何時?		10:21
5	K52	저녁? 아근데너나우유씨미봤으?	夕方頃? あ、ところでグランド・イリュージョン見た?		10:21 10:22
↑ ここまで開始部					
本題 → 나그거같이보러갈카해찌ㅋ あれ一緒に見に行こうかなと思ってたw 10:22					

例1のチャットの目的は発話番号5、K52の「나그거같이보러갈카해찌 あれ一緒に見に行こうかなと思ってた」になるため、このチャットの開始部の範囲はその前の発話までとなる。そして、本研究では、かけ手の開始発話と受け手の反応を観察するため、それが見られる初回の1ターン（点線の四角）に絞って構成要素を調べる。ここで、K52はA [注目要求] とC [状況確認] を用いてチャットを開始し、それに対してK53はd [応答]、f [その他]、b [挨拶表現] を用いて反応している。連鎖パターンに関しては、K52の「여적바쁘시낭? まだ忙しい?」に対して、K53が反応（「응 うん」）を示しており、それが開始部内に現れたため、[連鎖一A型]に該当する。

5. 結果

日本語のチャットと韓国語のチャットで、開始部が存在しているチャットの数、表4に示した通りである。開始部が存在するという事は、かけ手のチャット開始発話が本題ではなく開始の構成要素であることを意味し、開始部が存在しないということは、開始の構成要素が1つも現れずにチャット開始発話で本題に入ったことを意味する。

日本語チャットで開始部が存在したのは40件のチャットのうち26件であり、韓国語チャットで開始部が存在したのは40件のチャットのうち29件であった。

表4 開始部の有無

開始部	日本語	韓国語
有	26 (65%)	29 (72.5%)
無	14 (35%)	11 (27.5%)
合計	40件 (100%)	40件 (100%)

5.1 構成要素について

以下の表5は、かけ手による開始発話の構成要素の出現頻度（回）と比率（%）である。

表5 かけ手による開始発話の構成要素の出現頻度（回）と比率（%）

構成要素	日本語	韓国語
A 注目要求	22 (44.0%)	31 (68.9%)
B 挨拶表現	20 (40.0%)	5 (11.1%)
C 状況確認	1 (2.0%)	8 (17.8%)
D 名乗り	1 (2.0%)	1 (2.2%)
E 天気の話	2 (4.0%)	0 (0%)
F その他	4 (8.0%)	0 (0%)
合計	50回 (100%)	45回 (100%)

表5は、開始部が存在する26件の日本語チャットと29件の韓国語チャットで現れたチャット開始の構成要素である。

開始部におけるかけ手の開始発話、すなわち、かけ手がチャットを開始する際に用いた構成要素は、日本語チャットで50回、韓国語チャットで45回現れた。その中で、両言語ともA [注目要求] が最も多く観察された。日本語チャットでは、B [挨拶表現] が40.0%で2番目に多く観察されたが、韓国語チャットでは、C [状況確認] が17.8%で2番目に多かった。D [名乗り] も両言語でそれぞれ1回ずつ観察されたが、E [天気の話] は日本語チャットのみに見られた。

以下の表6は、開始部が存在する日本語チャット26件と韓国語チャット29件のチャットで現れたかけ手の開始の構成要素に対する受け手の反応の構成要素の出現頻度(回)と比率(%)である。

表6 受け手による反応の構成要素の出現頻度(回)と比率(%)

構成要素	日本語	韓国語
a 注目要求	1 (9.1%)	1 (8.3%)
b 挨拶表現	5 (45.5%)	2 (16.7%)
c 状況確認	0 (0%)	1 (8.3%)
d 応答	2 (18.2%)	7 (58.3%)
e 天気の話	0 (0%)	1 (8.3%)
f その他	3 (27.3%)	0 (0%)
合計	11回 (100%)	12回 (100%)

まず、開始部がある日本語チャット26件において受け手の反応が現れたのは7件(応答率26.9%)、開始部がある韓国語チャット29件において受け手の反応が現れたのは8件(応答率27.6%)であった。日本語チャットの場合、受け手の反応があった7件のチャットの中で、11回の構成要素が見られ、韓国語チャットは、受け手の反応があった8件のチャットの中で、12回の構成要素が見られた。日本語チャットでは、b [挨拶表現] が45.5%で最も多く見られた一方、韓国語チャットでは、かけ手の先行発話に対する返事、d [応答] が58.3%として最も多く現れた。

例2ではかけ手が相手を呼ぶA [注目要求] と相手の現在位置を確認するC [状況確認] を用いてチャットを開始している。受け手は、かけ手の質問に答えるd [応答] を用いて反応している。

例2 かけ手のA [注目要求] とC [状況確認]、受け手のd [応答] の韓国語チャット

1	K4	K5 오데야?	K5どこ?	A [注目要求] C [状況確認]	19:20
		오늘도 언니네 집이야??	今日もお姉さんの家? w	C [状況確認]	19:20
2	K5	응 아직	うん まだ	d [応答]	19:41
3	K4	ㅋㅋㅋㅋ쌍둥이유모ㅋㅋ	www双子の乳母だねww		19:42
4	K5	밥먹이느라	ご飯食べさせていて		19:42
		스키화 못받았당	電話に出られなかった		19:42
5	K4	쌍둥이들이 커서 알아줘야할텐데 ㅋㅋ	双子が成長したらその苦勞を知ってくれないとww		19:42
6	K5	ㅋㅋㅋㅋㅋㅋ	wwwwww		19:42
7	K4	오늘 연습 일찍 끝나서 집에 가는길에 너 생각나서 지나해줘ㅋㅋ			19:46
		本題 → 今日練習が早く終わって家に帰り道であなたが浮かんで電話したんだww			

例3はかけ手が朝の挨拶、つまりB [挨拶表現] でチャットを開始しており、それに対して、受け手も朝の挨拶、b [挨拶表現] とかけ手の名前を呼ぶa [注目要求] で反応している例である。

例3 かけ手のB [挨拶表現]、受け手のa [注目要求] とb [挨拶表現] の日本語チャット

1	J34	おはよー!	B [挨拶表現]	9:12
		本題 → 結婚式の準備忙しくなってきたみたいね(絵文字)		
2	J35	おはよー J34ちゃん(絵文字)	b [挨拶表現] a [注目要求]	9:32
		1ヶ月切ったからバタバタしてるよおお(絵文字)でも楽しみー!	←本題の応答	
		J34ちゃんはげんきにやってるー?	←新しい話題提示	9:32
		Aちゃんもすすすす大きくなってるだろうねー♡♡		

5.2 連鎖パターンについて

以下の表7は開始発話とその反応の連鎖パターンの出現頻度（回）と比率（％）である。

表7 連鎖パターンの出現頻度（回）と比率（％）

類型	日本語	韓国語
連鎖型	ア	1 (2.5%)
	イ	6 (15.0%)
非連鎖型	19 (47.5%)	21 (52.5%)
ゼロ型	14 (35.0%)	11 (27.5%)
合計	40回 (100%)	40回 (100%)

連鎖パターンにおいて、両言語で「非連鎖型」が半数近くを占めており、次いで「ゼロ型」が多く現れたことが分かった。しかし、「連鎖型」においては、日本語チャットは開始部の外で受け手の反応が見られる「イ型」（上記の例3）が多く観察されていたが、韓国チャットでは、開始部内で反応がある「ア型」（例1）のみ観察された。

例4はJ39の「おはようー！」のB「挨拶表現」に対してJ40が何の反応も示さなかったため「非連鎖型」に該当する。

例4 「非連鎖型」の日本語チャット

1	J39	おはようー！	B「挨拶表現」	11:20
本題→ 31日は何時くらいにどこにいらいいかなあ？				
2	J40	そうだ！もうすぐだね（絵文字）何時にしようか？お店は18時からみたいだけど		12:15

例5はJ40が突然「Aと会った!!!」と本題を出し、開始部の構成要素に該当するものが見られない。この場合は、開始部が存在しないと見なし、連鎖パターンとしては「ゼロ型」に該当する。

例5 「ゼロ型」の日本語チャット

本題→	1	J40	Aと会った!!!	20:40
	2	J41	え！？！？！？	20:45
			なに！？！？！？	20:45
			どうということなの？？	20:45

6. 考察

かけ手の構成要素において、日韓双方でA「注目要求」が最も多く現れた。具体的には、例2のように相手の名前などを呼びながらチャットを開始した例が多く、それは相手に親密感を与えながらコミュニケーションを行おうとする意図の表れであると考えられる。またチャットは対面で行われるものではないため、話題に入る前に相手を会話に集中させる必要があり、相手を惹きつけるためにチャットの最初にA「注目要求」を頻繁に使っているとも推察される。

また、日本語チャットでは韓国語チャットより、かけ手・受け手両方でB・b「挨拶表現」が多く現れた。吉野（1994）によると、開始部で現れる受け手の挨拶は、相手との出会いが受け入れられるもの、つまり、離れていた相手との関係を再構築し、新たな出会いを不安なく始めるためのものである。しかし、本研究のデータでは例4のようにかけ手の挨拶に対して受け手の挨拶が現れず会話が進む例もあり、スマートフォンチャットでは、受け手だけではなく、開始するかけ手の挨拶も相手との関係維持または、相手との関係を再構築する役割を担っていると考えられる。

韓国語チャットでは日本語チャットよりかけ手のC「状況確認」が多く見られたが、これは相手の現在の状況を把握し、上手く本題に入るための準備行動だと考えられる。C「状況確認」は質問の形式で提示されるので、受け手の反応が現れやすいため、韓国語チャットでは受け手のd「応答」が日本語チャットより多く観察された。

連鎖パターンにおいて、日韓両言語で、開始部が存在しない〔ゼロ型〕の割合が少ない（日本語チャット35%、韓国語チャット27.5%）。コンピューター媒体のチャットをデータとして分析した倉田（2004）でも、開始部が存在しないチャットは現れていたが、63件の内4件と数は多くなかった。そこからスマートフォンチャットは、開始部を作らず、すぐ本題に入りやすいコミュニケーション媒介なのではないかと考えられる。

一方、両言語で最も多く観察された連鎖パターンは〔非連鎖型〕である。その理由として2つが挙げられる。まず、かけ手はA〔注目要求〕を最も多く使用してチャットを開始しているが、受け手は質問形式でないに回答する義務がないので、名前を呼ぶなどのA〔注目要求〕に対しては反応をあまり見せないからである。次に、かけ手が相手が反応をする時間を与えないからである。例えば、例4のように、かけ手のJ39は、「おはようー」と言って、受け手の反応を待たずにすぐ本題を提示している。そのため、受け手は「おはようー」に答えるより、より重要な本題に回答することを選ぶようになると考えられる。しかし、例3のように、本題が出た後でも受け手は「挨拶ー挨拶」と挨拶を交換した後本題に回答している例が、「挨拶ー（反応無）」より多かった。それが韓国語チャットより日本語チャットでより多く観察された〔連鎖一I型（開始部の外で受け手の反応がある）〕の連鎖パターンである。一方、韓国語チャットでは〔連鎖一A型（開始部内で受け手の反応がある）〕が日本語チャットより多く観察された。このように同じ〔連鎖型〕の中で、日本語チャットでは相手の反応を待たず本題に入る〔I型〕が、韓国語チャットでは相手の反応も確認してから本題に入る〔A型〕が多く観察されるのは、両言語でチャットを開始する際に用いる構成要素が異なるためであると言える。日本語チャットはB〔挨拶表現〕を用いてチャットを開始するので、その後すぐに本題を提示しやすいが、韓国語チャットはC〔状況確認〕を用いて質問の形式で相手に声をかけているので、受け手の反応を見てから本題に入るのではないかと考えられる。そのため、例1と例2のように本題を出すまで発話のやりとりが長くなったりしているが、それは日韓母語場面の電話会話を分析した林（2003）の研究結果（韓国語の場合、「第一の質問ー答え」の出現する割合が高く、話題の開始が遅れる傾向が見られる）と同様であり、それが韓国母語場面のメディアを問わない会話の開始部の特徴であることが推察される。

7. まとめと今後の課題

本研究では、日韓におけるスマートフォンチャットの開始部の構造の特徴を明らかにすることを目的とし、かけ手のチャット開始発話と受け手の反応を調べるために、チャットを開始してから初回の発話のやりとりで現れた構成要素とその連鎖パターンを分析した。分析の結果、構成要素に関して、両言語でかけ手はA〔注目要求〕を多く用いていた。しかし、日本語チャットは、かけ手・受け手両方でB・b〔挨拶表現〕を用いながら相手との関係維持を図っていたのに対し、韓国語チャットではかけ手はC〔状況確認〕を、受け手はそれに対するd〔応答〕のパターンが見られ、本題に入るまでのやりとりが多く、日本語チャットより本題の開始が遅れる傾向が見られた。また、日韓両言語で開始部が存在しなかったり、相手の反応を待たずにすぐ本題に入るパターンが観察され、これまでとは異なる開始部の構造が確認できた。このことから、両言語のチャットには、特有の構造があることが明らかになり、韓国語母語話者が日本語で日本人とチャットをする際に母語で行うチャットのようにチャットを開始すると相手に違和感を与える可能性があると考えられる。この結果は、スマートフォンチャットを通して日韓接触場面の機会がますます多くなっていく時代に、円滑な異文化間文字コミュニケーションのための示唆を与えることができると考える。

本研究は20～30代の女性同士のチャットのみを分析対象としたが、チャットは他の年代も、また男性もよく利用しているため、今後は年齢層を広げるとともに、男性同士のチャットの構造も研究したい。

註

1. 本研究ではザトラウスキー（1993）の発話機能の一部である「注目要求」と倉田（2004）の表現形式である「呼びかけ一応答」、「名乗り一応答」、「存在の認定」、「挨拶」、「挨拶表現」、「その他」を開始部を構成している要素として用いて表1と表2のようにまとめる。

参考文献

- 林美善（2003）「電話会話の開始部における日韓対照研究：20代の友人同士の電話会話から」『言語文化と日本語教育』（26），41-53.
- 岡本能里子（2016）「雑談のビジュアルコミュニケーション—LINEチャットの分析を通して—」『雑談の美学言語研究からの再考』ひつじ書房，213-236.
- 倉田芳弥（2004）「日本語母語話者同士による一対一のチャットの会話の開始部：構成要素とその順序を中心に」『言語文化と日本語教育』（28），58-64.
- 鄭在恩（2009）「日韓の勧誘ストラテジーについて」『言語と文化』（10），113-132.
- ポリー・ザトラウスキー（1993）『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版
- 中井陽子（2004）「話題開始部/終了部で用いられる言語的要素—母語話者及び非母語話者の情報提供者の場合—」『講座日本語教育』（40），3-26.
- 西川勇佑・中村雅子（2015）「LINE コミュニケーションの特性の分析」『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』（16），47-57.
- 吉野文（1994）「電話の会話におけるかけ手と受け手の言語行動：開始部を中心として」『言語文化と日本語教育』（26），1-13.